

お お ぞ ら

No. 157

聖隷福祉事業団への法人移管後は40号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2013年8月1日

「達成感・満足感を得る」と

所長 横地 健治

重症心身障害の大多数は有意な言語理解のない人たちです。こうした人たちにとって、最良の人生経験とは満足感・達成感を得ることだと思います。こうした経験をすることが施設入所者にとって最も重要なことと私たちは考えています。ただし、満足感・達成感を得ることができるとは、外界の何かに気づくこと、注意を向けること、意欲を持つこと、期待をすることが前提になります。これらが十分にできれば、それができるように促します。その後、満足感・達成感を得る活動を行うようにしています。

このことを、見る世界について考えてみます。周りを見て、ある物に気づき、その物の動きや形の変化に注意がいき、こうなったらいいのにと期待し、その通りなったら嬉しかった。こうした心の動きが得られたなら、その視覚的体験は満足感・達成感に至ったと判断します。こうした体験を意識的に提供したら、それが「満足感・達成感の活動」です。興味関心を持つ対象はそれぞれ異なるはずですが、それを言葉で表すことができない人たちには、職員は、日々の生活場面の観察から、それを推測し提供しなければなりません。こうした素材を日常生活用具あるいは遊具の中から見つけていくようにしています。ただし、重症心身障害児(者)の視覚的世界を理解することには問題があります。脳障害があると、外界が健常者と同じように見えていない可能性は大いにあります(「中枢性視覚障害」と言います)。一般的には、複雑な形の理解、奥行き感覚は苦手です、それに比べれば、動きの認識は容易なようです。こうした配慮

をしながら、視覚素材を選定していきます。次に、聴く世界について考えてみます。ヒトは見て多くの情報を得ており、これに比べれば、聴いて得る情報は、言葉を除けば、少ないとされています。ヒトは脳の多くの部位を視覚情報処理に割り当てています。このことは、視覚情報処理は高度な作業であり、脳障害があればこれが障害される可能性が高いということになります。つまり、前述の中枢性視覚障害は、重症心身障害では高頻度に存在することが予想されます(それを証明することは難しいですが)。そうすると、重症心身障害の聴覚世界はとても重要です。こうした特徴は乳幼児期には顕著です。「この子は目が見えず、聴く世界がすべてである」と母親からよく聞きます。聴いて満足感・達成感を感じるといふのはなじみにくいことですが、見ることと同じように、周りの音や声に気づき、それに注意がいき、こうなったらいいのとその変化を期待し、その通りなったら嬉しかったとすれば、その聴覚的体験は満足感・達成感に至ったと判断すればいいと思います。視覚素材と同じように、これに適した素材を、日常生活

活用具あるいは単純な楽器の中から見つけていくようにしています。なお、健常者の好む音楽CDは、そのままでは、複雑過ぎて不適と思っっています。次に、手で操作することについて考えてみます。手で物を作って、その出来映えに満足する、達成感を感じるといふのは、健常者でもよくあることです。しかし、大多数の重症心身障害児(者)では、手動作に重大な制約があります。それでも、不自由ながらも、手を使って(あるいは、身体全体を使って)、物を動かしたり、あるいは、整っている物を崩したりして、喜ぶことは自然に見られます。これも満足感・達成感です。その人が動かすことのできる場所に、興味関心のある素材を置いて、自分で操作すること(実際は、立った物を倒すようなことが多い)を促し、その結果がわかるようにします。どこにどんな物を置いたなら、意識的に操作できるのか、よく考えなければなりません。その人が最も自由に動かせる身体の動きは何かを知ることが重要です。

このように、有意な言語理解のない人たちの満足感・達成感の活動は、健常者とはず